

平成 30 年 12 月 6 日参議院文教科学委員会議事録

○松沢成文君 希望の党の松沢成文でございます。

まず、私、今日は、大学医学部の不正入試についてお伺いしたいと思います。

大臣、今日の読売新聞の一面、見ました。順天堂大学で女子差別認定、あと浪人生も敬遠していたと。まあこれ第三者委員会が発表して、来週には大学が発表するそうであります。

八月の東京医大の不正入試を受けて、文科省は他大学の医学部での不正入試を調査しているところだと思います。で、先月中旬には、文科省は複数の大学で不適切な入試の疑いがあるとしながらも、不正の有無については大学側の自主的な公表を求めると、こういう極めて中途半端な発表を大臣がなされたわけであります。

これ、受験生、今願書受付しているんですよ。こんな極めて中途半端で不安定な状況で、大学どこ受けるか選べますかね。例えば、女子や浪人回数が多い受験生が不利な扱いを受ける大学が明らかになれば、いや、そんな大学、私は行きたくない、当たり前でしょう、それは。

で、東京医大のように、過去二年分の、明らかに不正があったことで入学できなかったその生徒を来年の枠で入学させるから、来年はぐうっと新規の枠減らしますと言っちゃっている大学もあるわけですよ。こんな不安定な状況で、十二月から願書受付が始まって、一月十日ぐらいでもう終わるわけです。私は受験生がかわいそうでしょうがありません。文科省は何も監督官庁として決断をしない、情報公開しないからであります。

さあ、大臣、私は今願書受付をなされているその受験生たちのためにも、どれだけの医大で不正があったのか、もうこれ調査させているわけですから、早く発表させるべきだと思います。まずそれをやっていただきたいということと、やるとしたら一刻も早くやらないと、願書の受付、来年の一月十日で終わっちゃうんですよ。もう来週いっぱいぐらいにやると、

それが受験生に対する私は監督官庁としての責務、礼儀だと思いますが、いかがですか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 今、松沢議員がお話をされたとおり、全ての医学部医学科を設けている大学を対象として、現在、拡大して、訪問調査、またその際に生じた疑問点等についての事実関係の確認を行っておりまして、今、まさしく大詰めの段階にあります。

ということもありまして、現時点、今この時点において具体的な大学名を公表する段階ではないと思いますけれども、不適切な事案があった大学については、とにかく大学が自主的に、かつ速やかに公表するなどの対応をお願いしたいという考えは既に大学側に伝えているところであります。

何よりも大事なのは、今おっしゃったように、全国の受験生が安心して今度の受験に臨めるということ、これがもちろん最優先なわけでありまして、そのため文部科学省は、全ての大学で今度の入学者選抜が適切に行われるよう、最終的な、今申し上げた調査結果が出る前に、十月二十三日時点で、こういう事例は不適切だからやっちゃいかぬという中間まとめを公表するとともに、私からもメッセージを発出したわけですから、まあ、それに従った形で来年度の受験が担保される。

また、AJMC側も、ついせんだって、不当な性別差別などの事案はもう今後行わない、将来にわたっては少なくとも行わないということを宣言したわけですから、まあそこは受験生の皆さんに安心をしていただけるんじゃないかなというように思います。

いずれにいたしましても、是非、大学において、今後の公正な受験を担保するとともに、不利益を被った受験生をどう救済するかということについては、また別途しっかりと対応してほしいというように思っています。

○松沢成文君 これまで不正を公表した大学は、東京医大、昭和大、神戸大、そして今回の順天堂大ですね。大臣は、複数の大学で不正があったと、もう公表しているわけですよ。じゃ、この四校以外にも文科省の今までの調査で不正をやっていると疑われる大学はあるんで

すね。そうであれば、それが早く公表されないと、受験生はそれを知らされないまま願書を受け付けることになりますよ。どうですか。

○国務大臣（柴山昌彦君） 繰り返しになりますけれども、現時点において訪問調査など、あるいは様々な応答、今最終的に詰めの作業を行っているところでありまして、現時点においては発表できる段階ではないというように思います。

あと、今、松沢議員が御指摘をいただいた順天堂大学の事案については、文部科学省の調査を受けて第三者委員会を設置し、そして、その結果についてはまだ公表前でありまして、私からのコメントは差し控えたいというように思っております。具体的な内容については、まだコメント前だというように承知をしております。

○松沢成文君 一方、不正は一切ありませんと公表している大学があるんです。これは慶応大学ですね。それから、ある大学は不正がないのは当たり前だから公表なんかする必要ないと、こう開き直っちゃっている大学もあるんですよ。ある大学にしてみると、ほかの大学もいろんな意見があって、公表するところとしないところがあるんだったら、うちどうしようかなと迷っちゃっている、こういう状況ですよ。

こういうときに大臣がリーダーシップ発揮しなきゃ、もう本当に受験生不安でたまんないですよ。また、今年の受験生までも、こんなに情報が行き届かない中で、不正やっていると思われる大学はほかにどこにあるかも分からない中で受験だけしろと、早く分かっていたらこんな大学受けないよと後から言われちゃいますよ。

私は、こここそ大臣のリーダーシップの取りどころだと思っております、前例踏襲主義の官僚の皆さんに決断任せたって駄目です、前例ないんだから。初めての危機管理なんですよ、これ。政治がやらなきゃ駄目ですよ。来週いっぱいには必ず公表していただきたい、そのことを私からお願いさせていただきます。

次に、テーマ変わります。

また、ゴルフを取り上げます。私は、ゴルフ関係の質問、この数年間で二十回ぐらいやっているんですね。

両大臣、まず文科大臣は埼玉県選出、そしてオリパラ大臣は千葉県選出、いいゴルフ場たくさんある地域なんですね。お二人はゴルフをなさいますか、なさいませんか、一言で教えてください。

○国務大臣（柴山昌彦君） 習慣としては行っておりませんが、当然やったことはあります。

○国務大臣（櫻田義孝君） 一年に一度か二度ぐらいはやります。

○松沢成文君 やったことがあるということで。

実は、私、オリンピックの会場の問題で霞ヶ関カンツリー倶楽部はもう余りにも問題が多過ぎると、なぜこんなところでやるのかと訴え続けてきたんですね。

今日、オリパラ大臣もみえていますので、もう一回ちょっと復習したいと思うんですが、霞ヶ関カンツリー倶楽部は日本一暑い場所にあるんですね。今オリンピックの暑さ対策というのが問題になっていて、マラソンだとか、ラグビーだとか、あるいは何とかサイクル、自転車だとか、みんな暑さ対策をやって、時間を早くしたり遅くしたりして調整しているんですよ。でも、霞ヶ関カンツリー倶楽部はめちゃくちゃ暑い、実は会場の中で一番暑いんです。環境庁が調査出しています。

でも、時間調整できないんです。ゴルフというのは少なくとも五、六時間掛かるんですね。トーナメント、プレーだけで四時間掛かって、練習しなきゃいけないから、そうするとゴルフの開始時間は八時を六時に早められるかという早められないんです。なぜかという、五時間掛かるスポーツだし、そして、東京や首都圏から行くのに二時間ぐらい見なきゃいけないからです、遠過ぎて。

だから、日本一暑い場所で、何で六十キロも離れた遠いところでやる、遠いところでやれ

ば輸送には物すごいお金が掛かります。そして、孤立したところでやるんで、警備には物すごいお金が掛かります。なぜこんなところでやるのかと言いつけてきているんですが、誰も政府の皆さんはきちっと対応してくれないんですね。

さあ、まずオリパラ大臣に聞きますけれども、霞ケ関でゴルフやるのに、この前、約、オリンピックの予算出しましたよね。あれは、恐らく縦横に積み重ねて全体で三兆円となっていると思うんです、国が幾ら、都が幾ら、組織委員会幾らって。あれ、競技別というものもあるし、あるいは警備全体で幾らとか、こういうのを掛け合わせて予算を作るんだと思うんですが、霞ケ関でゴルフをやります。さあ、これでのオリンピックに掛かる経費は幾らと見積もっているんですか。

○国務大臣（櫻田義孝君） 昨年五月に東京都組織委員会、国及び関係自治体の関係者間で合意した大枠の合意に定める役割分担に基づき、霞ケ関カントリー倶楽部の運営経費については組織委員会が自らの財源で負担することになっております。

このため、組織委員会に対して現在の状況を確認したところ、その他の競技会場と同様、輸送や警備の具体的な運営計画を検討している段階であり、現時点で具体的な経費の金額をお示しすることは困難とのことであります。

○松沢成文君 オリパラ大臣、環境省もいろいろ調査しているんですね。それで、オリンピックやる期間、二年連続、その同じ期間で調査しています。私もずっと個人的にもやっています。気温でいうと、霞ケ関、平均三十六度ですよ、この期間。一方、東京湾にある若洲カントリー、三十一度、五度違います。暑さ指数でも二度以上違うんですね。

全ての会場の中で一番暑いのは、何とさいたまアリーナでもない、東京新国立でもない、霞ケ関なんですね。霞ケ関がある川越市というのは日本一暑いんですよ。これ、首都大学東京がアメダスよりもよっぽど細かい調査をやって、今まで熊谷だと思っていたんです、川越の方が全然暑いと、こういう結果も出ているんですね。

なぜこんなに暑いところでゴルフやるんですか。グリーン上、五十度になるんですよ、この期間。五十度。ずうっとゴルフっていうのはいなきゃいけないんです。マラソンは通り過ぎちゃったらすぐ帰れるんですよ。

皆さんね、ちょっとどうにか、大臣、組織委員会に言ってください。やっぱり大臣は判断力は抜群って自負されているじゃないですか。こういうのをきちっと情報集めて判断しなきゃ駄目ですよ。失礼ですが、森組織委員会会長は判断力鈍っています。もう昨日の暑さ対策の発表、僕テレビで見ましたけれども、もう元気がないし、無理ですよ。

だから、ここは大臣が、いや、組織委員長、もう I O C とももう一回相談しよう、霞ヶ関でやるのは危険だと、熱中症で何人も倒れますよ。私も何度も聞いているんですが、もし熱中症で倒れて亡くなった方がいたら誰が責任取るんですか、大臣。大臣、教えてくださいよ、誰が責任取るんですか。改善しましょうよ。大臣、責任取ってくれるんですか。

○国務大臣（櫻田義孝君） ケース・バイ・ケースだということでございます。

○松沢成文君 本当に最も暑い会場のゴルフを暑さ対策の検討に加えないで、マラソンだとかラグビーだとか、そういうのばかりやっているんですよ。時間ずらせばいいって言われちゃうけれども、遠いから時間なんか全然ずらせないんです。ゴルフって、五、六時間掛かるんです。五十度になるんです、グリーン上。これを真剣に考えないと、私は大変大きなトラブルになると思いますよ。警告しておきます。

最後に、文科大臣、先ほど赤池委員から質問ありました。ゴルフ場利用税と公務員倫理規程、これはオリンピックをやる、オリンピック憲章にも反するんです、そしてスポーツ基本法にも反するんです。スポーツをやる上で差別を付けているわけですから。税金を取る、ゴルフは接待で絶対使っちゃいけない。それで、毎回私は文科大臣に聞くけど、同じ答弁ですよ、スポーツなんですと、しっかり文科省としては頑張りますって。もう毎回替わるごとに大臣はそう言っているけど、何の結果も出ていないじゃないですか。

大臣、ここで総務大臣とゴルフ場利用税についてはさしで、これ、オリンピックやるのに恥ずかしいと、やろうじゃないか二人でって言って、政治判断で、もちろん自民党の税調もあると思いますが、それぐらいのリーダーシップ示してくださいよ。オリンピックやる国として恥ずかしいです、こんなことをやっていたら。

総務大臣ときちっとこの問題を話していただけますか、協議していただけますか。次の国会でもう一回聞きますので、そうお答えください、最後に。

○国務大臣（柴山昌彦君） 物事のプロセスの順番としては、やっぱり今、松沢議員もおっしゃったとおり、党税調の中でのしっかりとした検討に基づいて総務省としっかりと制度設計していきたいと考えております。

○松沢成文君 時間ですので終わりますが、いつ決断するんですか。もう私、四年間言い続けているんですよ。オリンピック来ちゃいますよ。やっぱり政治家としてトップになったらきちっとリーダーシップを示さないと、また、いつかそんな大臣がいたなというと、もう思い出の世界になっちゃいますよ。

私は、そういう政治の改革をきちっとやっていただくことを強くお願いして、質問を終わります。